

米 国
ワシントン州キング郡の
死因究明制度について

警察庁刑事局捜査第一課

King County においては、公衆衛生部に設置された

King County Medical Examiner's Office
(以下「MEオフィス」という。)

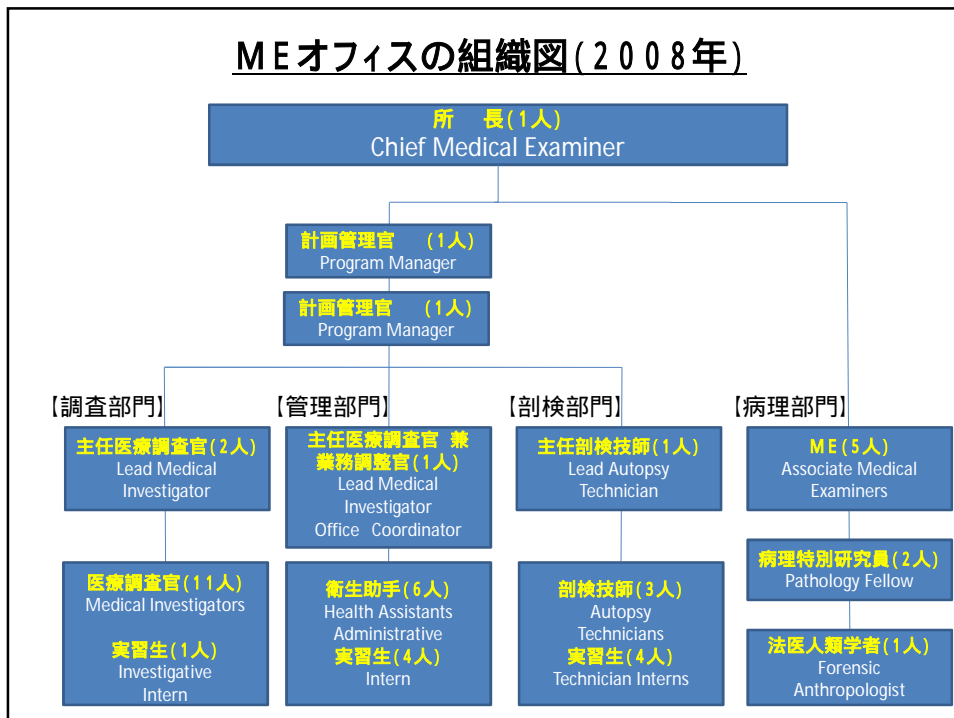
が突然死等の不自然死体の死因究明を担当している。

1 MEオフィスの組織

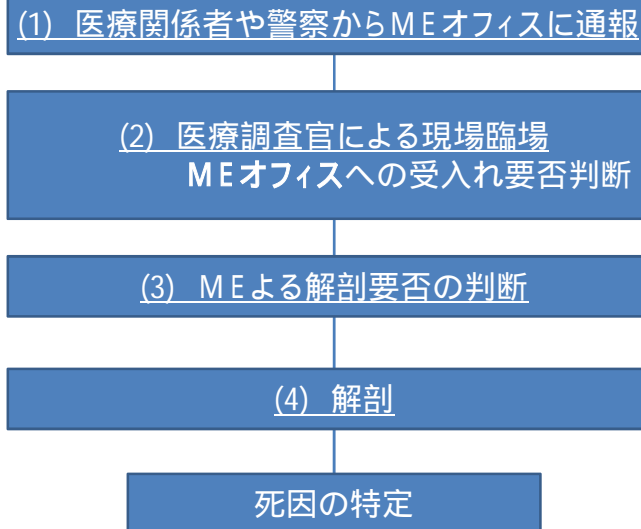
1968年、King County Coroner's Office
を廃止して設立

所長の下、

- ・ ME (Medical Examiner)
 - ・ 剖検技師 (Autopsy Technician)
 - ・ 医療調査官 (Medical Investigator)
- 等で構成



2 MEオフィスにおける死体取扱いの流れ



(1) 医療関係者や警察からMEオフィスに通報

通報体数 9,888体(2008年)

キング・カウンティ総死者数 13,339人

→ 総死者数のうち74%を届出

MEオフィスが取り扱う死体

死亡前36時間以内に医師の診察を受けておらず、健康状態が一見良好であった者の突然死

部分的にせよ死亡が不自然な死であるか、違法行為によって死亡した状況がある死

不審な状況が見受けられる死体

死因が不明、または曖昧な死体

各種暴力的行為に起因する死で、外傷が
第一要因か関連要因である場合

伝染病による死体

身元不明死体

未熟児の死体及び死産児

(2) 医療調査官による現場臨場

ME オフィスに通報がなされた死体について
現場臨場

医療調査官による現場活動

現場の写真撮影等

現場における死体の調査

ME オフィスに遺体を搬送するか否かの判断



9,888体のうち2,121体をME オフィスに
搬送してME の下で調査

死者の着衣、死者が身につけている
所持品の保管 → 医療調査官

関係者からの事情聴取や放置された
凶器の押収 → 警察

医療調査官 (Medical Investigator)
かつては警察官OBが多かったが、
現在は、医療関係者が多くなっている。

(3) MEによる解剖要否の判断

MEオフィスに搬送された死体について、
死体や関係書類を見た上で、解剖の要否を
判断する。

(4) 解剖

MEとそれを補助する剖検技師により解剖
が行われる。

2008年は、MEオフィスに持ち込まれた
2,121体のうち、1,232体を解剖

なお、薬物検査はワシントン州ステートパトロール科学
研修所 (Washington State Patrol Forensic Laboratory
Services Bureau) において実施

我が国との比較					
MEオフィスにおける死体取扱い (2008年)			日本における死体取扱い (2009年)		
種別	件数	割合	種別	件数	割合
キング・カウンティ総死者数	13,339人	100.0%	総死者数	1,144,000人	100.0%
MEオフィスに対する届出	9,888体	74.1%	警察に対する届出等	160,858体	14.1%
医療調査官の現場臨場	9,888体	74.1%	刑事調査官の現場臨場	32,676件	2.9%
MEオフィス要調査	2,121体	15.9%	要調査		
MEオフィス解剖	1,232体	9.2%	解剖	16,184体	1.4%

日本の死者数については暫定値である。

解剖率の我が国との比較			
MEオフィス(2008年)		日本(2009年)	
種別	件数	種別	件数
対キング・カウンティ総死者数	9.2%	対総死者数	1.4%
対MEオフィスに対する届出	12.5%	対警察に対する届出等	10.1%
対MEオフィス要調査	58.0%		